

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表
《仁淀川地域：第3四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (講じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>1 仁淀川流域茶の生産から販売までの一貫体制の強化による販売額の向上</p> <p>《いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>良質茶の主産地である仁淀川流域の生産者が共通認識のもと「仁淀川流域茶」(仕上げ茶)の販売を拡大するとともに、適正な栽培管理と効率的な生産体制の整備や、新たな加工品の開発と販路の開拓により、茶生産農家の所得の向上を図る。</p> <p>【JAコスモス、管内の茶生産組織】</p>	<p>○仁淀川流域全体をイメージした販促資材を活用し、流域ぐるみで積極的な販促イベントやPR活動を実施することで、一定のブランドイメージの構築と知名度の向上を図ることができた。</p> <p>○優良茶園維持管理体制について生産者アンケートを実施、その結果、今後のJAコスモス茶生産部会を中心とした産地ビジョンを策定することとなった。</p> <p>○煎茶以外の紅茶などの商品開発にも取り組み、商品のレパートリーの拡充を図ることができた。</p> <p>◆さらなる知名度向上と消費拡大</p> <p>◆小売販売量の増加</p> <p>◆優良茶園の維持</p> <p>◆新商品の開発</p>	<p>◆茶樹更新の意識付け(1回)</p> <p>◆仁淀川流域茶産地振興に係る協議会等の開催(1回)</p> <p>◆紅茶商品化検討(1回)</p> <p>◆新商品開発検討(1回)</p> <p>◆消費者と生産者との交流会(1回)</p> <p>◆茶害虫チャトゲコナジラミ対策説明(3回)</p>
<p>2 地域を支える基幹品目の振興</p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>中山間地域のほ場条件や気象条件を活かした基幹品目(ニラ・ピーマン・ショウガ・食用山椒)の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。</p> <p>【JAコスモス、JAコスモス各生産部会、越知町山椒生産組合】</p>	<p>○ニラの出荷量は夏期の天候不順等により目標達成には及ばなかったが、施設整備による生産体制は整いつつある。新規就農者及び新規栽培者の確保・育成も行われ、今後の販売額の増加が期待される。</p> <p>○ピーマンは長雨により収量が減少したが、適期苗定植や病害虫防除等基本的な技術の徹底の必要性が理解された。</p> <p>○ショウガの土壌消毒剤としてダゾメット剤とクロルピクリンが定着してきた。</p> <p>○山椒はさび病対策の目途がたった。</p> <p>◆新規就農者の所得低迷や品目部会での収量品質の格差が見られ、これらの対策が必要である。</p> <p>◆山椒の生育不良樹対策、収穫期の雇用確保</p>	<p>・新規就農者の支援対象者を選定後(15人)、対象者の意向を確認。</p> <p>・新規就農研修会を開催(7回)</p>
<p>3 薬用作物の産地拡大による所得の向上</p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコ・サンショウ・ダイダイなどの薬用作物の産地を漢方薬の需要増に対応できるように拡大する。また生産農家の所得の向上と就労場の確保を図る。</p> <p>【農事組合法人ヒューマンライフ土佐】</p>	<p>○農事組合法人ヒューマンライフ土佐が中心となって薬用作物の面積拡大に取り組んできた。その作付面積は仁淀川流域から嶺北、幡多地域まで拡大し、全県下的な取り組みになっている。特にサンショウの面積拡大が顕著であった。</p> <p>◆薬用作物の産地の育成</p>	<p>◆ミシマサイコ現地検討会(1回)</p> <p>◆ミシマサイコ現地巡回(10回)</p> <p>◆ミシマサイコ生育調査(4回)</p> <p>◆ヒューマンライフ土佐総会(5月28日)</p>
<p>4 力強い高糖度トマト産地の確立</p> <p>《仁淀川町、佐川町、日高村》</p> <p>高糖度トマト生産における生産特性を生かしたトマトの販売戦略や地域ネットワーク、消費者ニーズを基に付加価値を高めた産地間競争力を強化しながら、生産者の所得の向上につなげる。</p> <p>【JAコスモス、JAコスモストマト生産部会】</p>	<p>○食の安全・安心への取組強化、栽培マニュアルによる栽培技術の平準化、産地コンセプト活用によるイメージ戦略と合わせた高付加価値化、特★商材の販促活動への取り組みにより販売単価は向上した。</p> <p>◆人材育成及び産地の体制づくりにむけた活動の継続</p> <p>◆安定生産のための栽培技術向上</p> <p>◆光センサー導入に向けての生産者等の合意形成</p> <p>◆販売戦略の新たな展開</p>	<p>◆促成トマト各作業班の活動実践</p> <p>◆農業簿記講座開催 8回 20戸</p> <p>◆栽培管理指導 (促成:定例会8回 個別巡回指導延べ戸数:235戸、夏秋:現地検討会3回 個別巡回指導延べ戸数:80戸)</p> <p>◆光センサー整備に係わる打ち合わせ(6/12、11/6、12/13)</p> <p>◆販売戦略に係わる出荷販売検討会(6回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ◆茶樹更新の必要性の意識が向上(茶樹更新の説明:55名) ◆流域茶関係者の販売拡大への意識の向上及び年間活動計画の共有化 ◆紅茶パッケージ開発検討会(1回) ◆ほうじ茶開発検討会(1回) ◆茶害虫チャトゲコナジラミ防除への意識向上(参加者:100名) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆茶樹更新生産者および面積(4名、約40a) 	<p>【指標】 仕上茶の販売量 (H19 茶全体の7%) (H22 茶全体の11.4%)</p> <p>【目標(H27)】 16%</p> <p>【H25到達点】 14%</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者(12人)が支援を希望。 ・新規就農研修会に参加(延べ65人)。 		<p>【指標】出荷量 (H22:ニラ573t、ピーマン245t、ショウガ882t、食用山椒30t)</p> <p>【目標(H27)】 ニラ650t、ピーマン270t、ショウガ950t、食用山椒32t</p> <p>【H25到達点】 ニラ550t、ピーマン250t、ショウガ420t、食用山椒36t</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆葉草担当者間での情報の共有 ◆ミシマサイコ現地検討会参加人数:13名 ◆ミシマサイコの初期成育状況についての確認 ◆ヒューマンライフ土佐総会参加者(166名/411名) 		<p>【指標】薬用作物の作付面積 ミシマサイコ(H19:38ha)(H22:47ha) サンショウ(H19:12ha)(H22:59ha) ダイダイ(H22:18ha)</p> <p>【目標(H27)】 ミシマサイコ70ha サンショウ80ha ダイダイ30ha ※一部、愛媛県域を含む</p> <p>【H25到達点】 ミシマサイコ52ha サンショウ65ha ダイダイ23ha</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ◆促成(10/23~6/30) 高糖度トマト 311t 3.0億円 大玉トマト 287.7t 0.9億円 計 3.9 億円 ◆促成(~11/25) 高糖度トマト 9.3t (前年比168%) 大玉トマト 40.6t (前年比92%) ◆夏秋(5/26~10/31) 84.5t (前年比 109%) 72.7(千円) 前年比 107% 	<p>【指標】高糖度トマトの販売額 H19:4.2億円 H22:3.7億円</p> <p>【目標(H27)】 5.1億円</p> <p>【H25到達点】 4.5億円</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>5 JAとさし園芸産地ビジョン実現に向けた取組の推進と販売体制の強化</p> <p>＜土佐市＞</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、主要品目の生産性及び品質の向上を図るとともに、安全・安心を求める消費者ニーズに対応した農産物の生産を推進する。集出荷体制整備により販売力を強化し、農業所得向上に繋げる。</p> <p>【JAとさし】</p>	<p>○JAとさし園芸産地ビジョンの策定(H21～23)</p> <p>○JAとさし西部集出荷施設の整備(H21～22)</p> <p>(1)集出荷場等整備(H21)</p> <p>(2)土佐文旦選果機・生姜重量選別機ライン整備(H22)</p> <p>(3)青ねぎバーシャルシール包装機・予冷施設整備(H22)</p> <p>○JAとさし宇佐ピーマン集出荷場の整備(H22～23)</p> <p>(1)自動秤量包装機導入(H22)</p> <p>(2)集出荷場拡張(H23)</p> <p>○JAとさし主要販売品目H24園芸年度売上がアップ(対前年比104%)</p> <p>◆農産物価格の低迷を背景に新たな経費負担を伴う、JAとさし集出荷場施設再編構想の実現には、係る品目を単位とする組合員の合意形成に時間を要する。</p>	<p>・チーム会(連絡会、指導部会)16回</p> <p>・先進事例調査(四万十市)1回</p> <p>・ネギ出荷検討会12回</p> <p>・学び教えあう場 42回</p> <p>・栽培技術推進方向にかかる打ち合わせ会2回</p>
<p>6 加工用ワサビの加工の促進</p> <p>＜土佐市＞</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、加工用ワサビを製造する食品加工会社の取組を支援することにより、加工用ワサビ生産農家の規模拡大や産地育成を図り、基幹品目である加工用ワサビ生産の振興につなげる。</p> <p>【(株)マルカ】</p>	<p>○加工出荷施設の整備(H22)</p> <p>販売先である金印(株)が希望する200tの一次加工処理能力は備えることができた。また、県農業振興部、園芸連とも有望品目に位置付け、生産振興に取り組んでいる。</p> <p>◆出荷量を増やすため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者の掘り起こし ・既存栽培者の栽培規模拡大 ・栽培技術向上への支援 ・一次加工処理機械等の有効活用などが課題となる 	<p>・加工用ワサビの現地検討会開催</p>
<p>7 土佐文旦の加工</p> <p>＜土佐市＞</p> <p>地域の主要品目である土佐文旦の県内市場の飽和化・贈答需要の減少による単価安へ対応するため加工品の原料としての有効活用を図る。</p> <p>【JAとさし、土佐文旦加工組合、菊水酒造(株)、ひまわり乳業(株)】</p>	<p>○JAとさしと菊水酒造(株)が連携し、平成21年度から下級品(21年度10t、22年度30t、23年度30t、24年度30t)を活用した加工品(酒類)を6品開発・発売した。平成21年度総合支援事業導入により搾汁機を菊水酒造(株)が設置した。また、販売では、菊水酒造(株)のルートだけではなく、JAでもJAラベルによる商品として、贈答用セットもつくり販売を始めた。</p> <p>○土佐文旦加工組合では委託加工により飲料「ぶんぶん」を製造し、消費拡大を目指して都市部のアンテナショップ等での販売に取り組んだ。しかし、消費の低迷等の課題があり、新たにひまわり乳業(株)との連携による新商品の開発と販路の拡大を図ることとし、ステップアップ事業を導入して新商品を共同開発し、ANAの国内線内での販売(24年1月～3月)を行うとともに商談会、見本市に参加した。24年度は都市部での販路拡大にも取り組んだ。また、新たに搾汁体制が整い、加工業者との商品の共同開発と販路拡大の活動に加え、果汁の販売が活動の柱の一つとなった。24年度は42.7t加工に活用できた。</p> <p>◆開発した商品の販路拡大と果汁の消費の拡大のため加工業者との連携による商品開発と販売が必要。</p> <p>◆文旦の下級品は土佐市で年平均200tあり加工用原料の消費拡大が必要。</p>	<p>◆商品の消費拡大推進のための打ち合わせ(5回)</p> <p>◆土佐文旦の生産状況にあった加工仕向け量についての打ち合わせ(2回)</p> <p>◆土佐文旦の生産状況や商品の販売の企業同士の連携会議、打ち合わせ(3回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 JAとさし園芸品出荷量 15,263t(H23園芸年度) 【目標(H27)】 16,000t(H27園芸年度) 【H25到達点】 15,447t(H25園芸年度)
		【指標】 加工用ワサビ加工出荷量 (H21:60.0t) (H23:71.3t) 【目標(H27)】 150t 【H25到達点】 -
<ul style="list-style-type: none"> ・菊水酒造株式会社とJAの間で、26年の土佐文旦の下級品の出荷について具体的な数量の検討が進んだ。 ・菊水酒造株式会社で商品の開発は進んでおり6品となっている。(龍馬、ゼリーのお酒、丸形リキュール、文旦入り濁り酒、文旦入りこうじ酒、マッコリと文旦のお酒)JAのリキュールとあわすと7品 ・土佐市の直売所「ドラゴン広場」で菊水酒造の土佐文旦のお酒の販売が始まった。 		【指標】 加工原料用の土佐文旦の活用 量 (H19:0t) (H22:30t) 加工品の開発と発売 (H19:1品) (H22:3品) 【目標(H27)】 100t 4品(1品/年) 【H25到達点】 80t 加工品8品

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>8 生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)</p> <p>＜土佐市＞</p> <p>地域の基幹品目である生姜のフレッシュ生姜の増産を図るとともに、加工製品の生産性の向上を図り、土佐市内等の生姜生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【(株)前川博之商店】</p>	<p>○充填機等の導入及び工場の新設を行うことにより、経常利益率が高い加工品の生産性が向上している。</p> <p>◆生姜原体の受込量の確保 ◆加工品の売上増</p>	<p>○全国各地にある生協との商談会参加(鳥取・広島・東京・こうべ ほか) ○全国各地の市場での商談会参加(製造者と小売店ディーラの商談会)</p>
<p>9 いの地域における園芸産地の維持・発展</p> <p>＜いの町＞</p> <p>農産物価格の低迷、農業従事者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい状況がみられるなか、いの地域の園芸産地ビジョンに基づく生産の振興と集出荷体制整備により販売力を強化し、農業所得向上に繋げる。</p> <p>【JAコスモス(伊野支所、吾北支所)】</p>	<p>○JA伊野園芸産地ビジョンの検討(H21～23)により、園芸産地としての「あるべき姿」の実現に向けた検討を行った。</p> <p>○H24園芸年度のJAコスモスのいくつかの品目で出荷量の増加がみられるようになった。</p> <p>◆農産物価格の低迷を背景に、新たな経費負担を伴う集出荷施設整備には、係る品目を単位として組合員の合意形成に時間を要する。</p>	<p>・連絡会9回 ・ショウガ出荷体制検討会8回 ・加工用ワサビの現地検討会1回</p>
<p>10 集落営農の推進</p> <p>＜いの町＞</p> <p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p> <p>【いの町吾北地区の集落営農組織】</p>	<p>○こうち型集落営農モデル組織の育成(H21～24)</p> <p>上東地区営農組織が発足し、ニラ、ワサビ等による協業が始まった。また、稲作の作業受託部門ドリームサポートが発足し24年度は13haでの取組みとなった。また、集落営農組織の目的を達するために、組織内に野菜に親しみ、自給率向上と直販販売野菜の栽培を研究する部会(有望品目研究部会)も発足させ、平成23年度から3部門で活動を始めた。平成24年度は協同育苗等により16名の組合員が野菜づくりをおこなった。</p> <p>◆上東営農組合の各部門活動の定着 ◆上東地区外の集落営農組合と上東地区営農組合連携による地域ぐるみの活動展開 ◆集落営農組織の発足による集落営農</p>	<p>◆上東地区営農組合の各種会合の開催支援(延べ12回) ◆未組織地区への働きかけ(延べ12回) ◆協議会発足への関係機関への支援(4回)</p>
<p>11 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発</p> <p>＜いの町＞</p> <p>いの町本川地区の特産品として「本川きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取り組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。</p> <p>【本川きじ生産組合、庭先農家、いの町】</p>	<p>○目標達成には到っていないが、飼育及び処理加工マニュアルを作成し、当初飼育羽数より増加した。平成23年秋より新しく商品に「きじつみれ」「きじソーセージ」を追加し、バリエーションを充実させた。平成24年は生産組合がゆうばっく秋冬ギフトへ申請し採択、手箱建設は、東武百貨店ネット事業部で販売開始し、今後の足がかりとなった。</p> <p>◆需要に対応した安定的な生産・経営体制の確立 ◆需要増加に対応できる新たな設備投資の検討 ◆販路拡大(県内の知名度アップ、首都圏・関西圏)</p>	<p>・産振アドバイザー指導・助言実施(3回7月、9月)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		<p>【指標】生姜加工品の販売額 (H22 114,792千円)</p> <p>【目標(H27)】 200,000千円(H27.9)</p> <p>【H25到達点】 165,917千円</p>
<p>・加工用ワサビ生産者1名増(+土佐市での作付け増40a) JAコスモス、越知支所管内で4名(19a)増。</p>		<p>【指標】 JAコスモス出荷量</p> <p>【目標(H27)】 (園芸年度H23→H27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊野支所 生姜:464t→510t 白芽芋:27t→29t 胡瓜:259t→265t ・吾北支所 柚子:232t→250t ワサビ:21t→30t <p>【H25到達点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊野支所 生姜:476t 白芽芋:28t 胡瓜:261t ・吾北支所 柚子:237t ワサビ:23t
<p>・協議会発足につながる集会ができた。 ・上東営農組合有望品目研究部会では、6名が野菜2種類の試作を実施。試食会を開催する事となった。 ・作業受託の面積拡大についてリーダーの検討が始まった。 ・大野内集落リーダーが組織発足について具体的な構想の検討を始めた。</p>	<p>・水稲農作業受託(春作業)田植え126a、耕起106.8a、管理機20.7a、水稲防除機230.49a 秋作業973.60a12月時点延べ面積14.5759ha</p>	<p>【指標】 ・周年経営する協業面積・水稲作業の受託面積・集落営農組織数・集落営農組織のネットワーク化</p> <p>【目標(H27)】 協業面積H22:1.7ha→1.9ha 作業受託H22:8ha→24ha 集落営農組織数6→7組織 集落営農組織の協議会発足</p> <p>【H25到達点】 協業面積2.11ha 水稲作業受託面積14ha 集落営農組織数7組織 集落営農組織の協議会発足</p>
<p>・新商品として生ハムを試作</p>		<p>【指標】本川きじの生産羽数 (H20:1,000羽) (H23:2,400羽)</p> <p>【目標(H27)】6,800羽</p> <p>【H25到達点】6,375羽</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (講じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>12 農業振興ネットワークの構築による地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>生産農家、加工品製造者、農産物等販売者等のネットワークを構築し、情報の共有化を図り、日高の農産物及び村の知名度アップを図ることにより、地域生産者の所得向上や地域の活性化を目指す。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○生産農家、加工品製造者、農産物等販売者等のネットワークの構築</p> <p>◆日高村及び日高村農産物の知名度向上</p>	<p>◆日高村アグリネットワーク会議の開催(2回)</p>
<p>13 仁淀川流域における木材産業の振興</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>仁淀川流域における間伐の推進と素材の増産等に対応するため、生産・加工・流通の安定化に向けた取組を行い、木材産業の振興を図る。</p> <p>【森林組合・林業事業者・素材生産業者・製材業者等】</p>	<p>○「森の工場」の推進により、事業者や担い手の育成、間伐の推進が図られた。</p> <p>◆ 担い手の育成</p> <p>◆ 施業の集約化</p> <p>◆ 低コストの取組</p> <p>◆ 加工・流通体制の整備</p> <p>◆ 増産体制の整備</p>	<p>◆林業事業者等事業説明会</p> <p>◆森の工場事業者(森林組合及び林業事業者)の個別ヒヤリング</p>
<p>14 特用林産物の販売拡大</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>特用林産物(シギミ・サカキ・竹炭等)の生産量の増加、品質向上のための取組などにより販売を拡大し、生産者の所得の向上を図ると共に新たな特用林産物への取組を行う。</p> <p>【JAコスモス・仁淀川森林組合・特用林産物生産者】</p>	<p>○ 栽培指針の作成、生産者実態調査、現地研修会、目慣らし会、病虫害防除研修会等の取組により、品質が向上し生産量の増大が図られ、生産者の所得向上が図られた。</p> <p>◆ 生産量の増加</p> <p>◆ 販売価格の向上</p>	<p>◆特用林産物(生産・販売拠点)カルテ作成調査の取りまとめ</p> <p>◆特用林産物流通状況調査の実施</p>
<p>15 うるめのブランド化</p> <p>《土佐市》</p> <p>「宇佐の一本釣りうるめ」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓により需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供する体制づくり、また、観光分野への経済効果の波及を目指す。</p> <p>【企業組合宇佐もん工房】</p>	<p>○年間を通じての生産・販売体制の構築、市場調査、うるめを使ったレシピの開発により、ブランド化が一定できた。</p> <p>○加工場の新設等によって、顧客からのニーズに対応でき、取引件数や売上も伸びてきている。</p> <p>◆宇佐もん工房経営の安定化</p>	<p>○『一本釣りうるめ祭り』の開催(市内13店舗参加)</p> <p>○商談会への参加</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
◆サニーマートでの物販(愛媛県:2回)		【指標】農産物販売額 (H22: 3.2億円) 【目標(H27)】 3.4億円 【H25到達点】 3.3億円
◆増産に取り組む林業事業者の把握(事業者数12社)		【指標】素材生産量 (H19 5.9万m ³) (H22 3.7万m ³) 【目標(H27)】 6.3万m ³ 【H25到達点】 5.5万m ³
		【指標】シギミ・サカキの出荷量 (H19 22t) (H22 30t) 竹炭の出荷量 (H22 20t) 【目標(H27)】 シギミ・サカキ 32t 竹炭 25t 【H25到達点】 シギミ・サカキ 26t 竹炭 20t
・居酒屋産業展(東京) 商談件数 約30社 → 5社継続中(納品2社) ・シーフードショー(東京) 商談件数 約25社 → 10社継続中(納品5社) ・ファベックス関西(大阪) 商談件数 約50社 → 30社継続中(納品7社) ・食の商談会(東京) 商談件数 約12社 → 4社継続中(納品1社)	売上高 4月~12月売上約36,000千円 (前年比137%)	【指標】うるめ商品の販売額 (H19: 0千円) (H22: 5,493千円) 【目標(H27)】 100,000千円 【H25到達点】 50,000千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承</p> <p>《土佐市、いの町》</p> <p>地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙及び機械すき和紙を含め、県内外での消費拡大を図り、原料や担い手の確保につなげる。また、特に担い手については、手すき和紙職人、道具職人、楷栽培農家のいずれもが高齢化が深刻な状況となっており、本格的な後継者の育成に繋げる取組を行う。</p> <p>機械すき和紙については、用途拡大に向け、異業種連携やマッチング等を実施し、更なる販路拡大を目指す。</p> <p>【手すき和紙協同組合、高知県製紙工業会、いの町商工会、i-nos.net 他】</p>	<p>○景気低迷やデフレ等の要因で、目標の達成には及ばなかったが、紙産業全体が大幅に落ち込む中、土佐和紙の知名度の向上、下降の一端をたどっていた販売額減少の鈍化や原料栽培、加工技術の継承に一定の効果が出ている。特に、土佐和紙が認知されるようになり、利用しようという機運の向上が見られた。(卒業証書利用学校の増加、清酒のラベル、ふるさと博名刺等)</p> <p>○廃業になっていた書道用紙事業の復活や、新規書道半紙の誕生により、今後の受注対応や販売額増加に期待ができる。</p> <p>○幼稚園、小中高等学校など若年層への紙の文化や歴史のPRに力を入れ、手すき体験者や紙の博物館への来館者が増加した。</p> <p>○第一線で活躍するクリエイターとのコラボにより、土佐和紙を使った新製品を開発し、紙の博物館の人気商品になっている。</p> <p>○紙の博物館販売コーナーの新しい製品(和紙・加工品)も購入者が出ている。</p> <p>○ねんりんピックの表彰状に手すき和紙を使用することが決定した。(H24)</p> <p>◆商品(土佐和紙)としても原紙のみの販売は限界があるため、商品化、包装等で付加価値をつけた販売戦略の構築が必要。</p> <p>◆手すき和紙職人も多くが高齢化しており、後継者の育成が課題。現在、人気のある商品も生産量が少なく、注文があっても断る事例も多くなっている(鳥の子名刺、清張紙、納経帳、がんび紙等)。所得の向上も含めて職業としてさらに魅力あるものにすることが必要。</p> <p>◆手すき和紙の営業ができる人を確保する方法を検討することが必要。</p>	<p>○ねんりんピックおもてなしグッズ制作 ・土佐楮100%の手漉きはがき 11,000枚 納品</p> <p>○プラチナプリント印画紙用和紙の開発</p> <p>◆土佐典具帖紙の紙漉き職人である浜田洋直、治兄弟が販路拡大のために地域需要創造型等起業・創業促進事業の交付申請を行い、採択された。(補助対象事業費:約500万円)</p> <p>○ねんりんピックでの手漉き実演</p>
<p>17 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興</p> <p>《土佐市》</p> <p>サンシャイン高岡跡地に観光案内機能や野菜等の直販所などを整備し、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。</p> <p>【土佐市商店街活性化推進協議会】</p>	<p>○集客拠点施設の整備に向け、商工会及び農協等で構成される土佐市商店街活性化推進協議会を設置し、運営等について協議し計画策定に取り組んだ。</p> <p>○25.4土佐市立高岡商店街集客施設「ドラゴン広場」をオープン</p> <p>◆安定的な運営のため ・継続的な集客につなげるための店舗の魅力づくり、品揃え、情報発信 ・先進事例等から学ぶ施設運営のノウハウ蓄積 などが必要</p>	<p>○テナント会の実施(12回)</p> <p>○イベントの実施(GW、パブリックビューイング、ドラゴン夜市等)</p>
<p>18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化</p> <p>《いの町》</p> <p>空き店舗・旧町屋・倉庫等について、地域産品の販売やコミュニティーの場、新規起業希望者へのチャレンジショップ等への有効活用を目指す、いの町商店街の再生へ向けた取組を行う。</p> <p>人を商店街へ呼び込むための取組として、仁淀川七色ロード市の定着化・拡大を図るとともに、商店街の核となるまちの駅の設置に向けた検討を図る。</p> <p>【いの町、いの町商工会】</p>	<p><成果></p> <p>○3年間閉店していた雑貨店が七色ロードの取り組みをきっかけに、花屋として再度開店した。</p> <p>○現在閉店している店舗が七色ロードのイベントの日のみ、開店するようになった。</p> <p>○有機野菜販売店が商店街に新規開店した。</p> <p><課題></p> <p>◆個店の魅力向上(わざわざきてもらう店づくり)</p> <p>◆空き店舗等の有効活用(受け皿の確保、魅力あるプレイヤーの確保)</p> <p>◆活動の継続および人材育成</p>	<p>○商工会が小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業の調査研究事業に申請を行い、交付決定された。(総事業費500万円)</p> <p>○にやどがわ七色ロードの実施(7/21)</p> <p>○イノビ・オーダー2.5の実施(7/13~21)</p> <p>○サニーマート伊野店駐車場で吾北本川特産市を開催(12/18)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
○プラチナプリント印画紙を今秋、土佐白金(はっきん)紙として国内外に発売開始。		【指標】 土佐和紙の販売額 (H19:1.6億円) (H22:6.6億円) ・機械漉き5.4億円 ・手漉き1.2億円 【目標(H27)】 6.6億円(現状の確保) 【H25到達点】 6.6億円(現状の確保)
・イベント実施による来場者数の増加 (GW 5,326名、パブリックビューイング 120名) 来場者数 ・78,159名(4月～11月)		【指標】 施設での販売額 【目標(H27)】 1.1億円 【H25到達点】 施設での販売額62,000千円
○によどがわ七色ロード参加人数:666名、七色講座受講者:74名 ○イノビ・オーダー2.5参加人数:約500名 ○吾北本川特産市来客数:約200名		【指標】 いの町商店街の空き店舗率の改善 (H23:25.3%) ※25/99店舗 【目標(H27)】 20%未満 【H25到達点】 21%未満

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (講じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>19 地域産品を活用した冷蔵等の製造販売</p> <p>《いの町》</p> <p>地域特産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【(有)高知アイス】</p>	<p>○生産体制および品質管理の強化(H22～23)</p> <p>○商品開発および販路拡大(H22～23)</p> <p>開発したドリンクが好評で受注量が増加したが、同時期に生産体制を強化するための施設設備を整備しており、増産が円滑にできた。また、平成22年度には香港でアイスクリームの販売許可を取得することができ、平成23年度には海外での更なる販路拡大を目指し、海外向けHPの作成や商談会参加に取り組むなどして一定の販路拡大が図られた。</p> <p>○海外向けPRツール作成、水道施設の改良、直営売店の拡充(H24)</p> <p>平成24年度も海外での販路拡大のために成分検査・商標登録、ラベルプリンター導入、PR用ソフト制作、また海外向けの需要拡大を見込み給水施設を改良し海外向け販路拡大を強化できた。また、直営売店の飲食・売り場スペースを拡張し、工場視察の観光客等来店するお客様満足度の向上を図り、口コミ等によるPR効果によって更なる県外客による顧客拡大が見込まれる。</p> <p>◆周年販売を目指し、海外市場の販路拡大 ◆顧客ニーズへの対応</p>	<p>○高知アイス売店(直売所)オープン(4月20日～)</p> <p>○シンガポール 試食販売マーケティング(5月24日～6月2日)</p> <p>○アメリカ チェリーフードショー参加(6月10日～12日)</p> <p>○香港 試食販売マーケティング(6月12日～18日)</p> <p>○アメリカ 食品見本市「SFFS」(6月27日～7月7日)</p> <p>○ハラル認証(9月13日)</p> <p>○マレーシア 商談会FHM(9月17日～20日)</p> <p>○ハワイ・ホノルル開拓営業(9月27日～10月4日)</p> <p>○伊勢丹シンガポールプロモーション(10月8日～17日)</p> <p>○ロサンゼルスジャパンフードフェスティバル(11月7日～12日)</p> <p>○沖縄大交易会(11月13日～15日)</p> <p>○四国産品輸出商談会in高松(11月20日)</p>
<p>20 (株)フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>仁淀川町において、地域の商社として「(株)フードプラン」を位置付け、一次産品を活用した商品づくりを進め、雇用の確保や農家所得の向上につなげる。</p> <p>【(株)フードプラン、仁淀川町】</p>	<p>○主力商品づくり(H21～23)</p> <p>目標(販売額2.6億円)の達成を1年前倒しで実現。雇用増にも貢献。主力商品が「カット野菜」であるため、野菜の高騰により利益確保が困難な局面もあったが、順調に販売額を伸ばした。</p> <p>○施設整備の検討が進み、課題整理ができた。(H24)</p> <p>◆現施設での生産能力が限界に達しており、地域経済へ貢献(雇用増、農家所得増等)するには、施設規模の拡大が必要である。</p>	<p>◆機能規模検討会の開催(1回)</p> <p>◆産業振興アドバイザー派遣</p>
<p>21 売れる商品づくりによる地産外商の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>佐川町において、地元民間企業の商品の販売促進や、一次産品を使った特長のある商品づくりにより、地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。</p> <p>【佐川町、JAコスモス、佐川町商工会、企画本舗さかわ屋、地元酒造会社、地元乳業者、地元加工業者、黒岩じりし、地元酪農家 など】</p>	<p>○平成21年度から酪農家を含めた農工商連携組織である地乳プロジェクト会を設置し、地元産の牛乳を使った商品づくりの取組を進め、平成22年度には、「さかわの地乳」のブランド化や地乳を使った加工品シリーズの商品化を図り、そのPR・販売促進の取り組みが進んだ。平成23年度には、地元の自主的な活動が活発化し、生乳出荷も増加傾向にあり、酪農家の所得も上がってきている。また、地乳加工品も増え、加工業者の所得向上や地域への経済波及効果が見込まれる。</p> <p>◆「さかわの地乳」シリーズ商品の管理、「地乳」商標管理を含めた組織の確立と体制の強化</p> <p>◆酪農家への直接収入化となる取組の実施</p> <p>◆「さかわの地乳」の牛乳、加工品等の販売ルートの確立</p>	<p>○宅配販売店の代理店契約締結(1店舗)</p> <p>○地乳プロジェクトでの研修会(1回)</p> <p>○県外食品関係者への地乳サンプル販売(5回)</p> <p>○道の駅「かわうその里」でのソフトクリームを地乳に変更する</p>
<p>22 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>日高村において、既存企業の訪問(アフターケア)の充実や遊休施設等の活用などによる企業誘致の取組を進めるとともに、地域資源を活用した企業の取組等を支援することにより、地域の産業の振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○木質ペレット関連商品生産会社の誘致</p> <p>◆既存企業の活性化と新規進出企業の誘致による地域産業の振興</p> <p>◆魅力ある企業の誘致や村内企業の活性化</p>	<p>・庁内プロジェクト会議の開催(3回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ(ハワイ)の商談会に参加した結果、末端の取引先約20社を開拓する。 ・アメリカ食品見本市「SFFS」 商談件数:21件、商談継続中:2件、契約見込:1件 ・マレーシア商談会FHM 商談バイヤー:12社、商談継続:2社、契約見込:2社 ・ハワイ・ホノルル開拓営業 営業件数:40件、契約件数:32件 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月アメリカ(ハワイ)商談会の結果、受注金額 約60万円(9月末時点) ・直売所の売上約1,083万円(4~12月) 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】冷菓等の販売額 (H22:3.75億円) 【目標(H27)】 4.37億円 【H25到達点】 4.12億円
		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】(株)フードプランの販売額 (H19:2.2億円) (H22:3.2億円) 【目標(H27)】 4.0億円 【H25到達点】 4.9億円
<p>○FOODEX JAPAN 2013でご当地牛乳グランプリ 金賞受賞</p> <p>○1月から5月まではあまり反響は無かったが、6月以降の売上は昨年を上回った</p>		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】生乳出荷量の拡大 (H21:240t) (H22:260t) 【目標(H27)】 480t 【H25到達点】 270t
		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】支援企業数 (H21:1社) (H22:1社) 【目標(H27)】 2社 【H25到達点】 1社

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (講じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>23 地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>高知県産のさつま芋を活用した新製品の開発などによる生産販売の拡大を推進する。</p> <p>【澁谷食品(株)】</p>	<p>○県外への新店舗の設置</p> <p>◆自社ブランド製品の開発と販路拡大</p> <p>◆原材料のさつま芋の栽培確保</p>	<p>・企業訪問によるヒアリング実施(3回)</p>
<p>24 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>木質系のネコ砂製造事業に取り組む県内企業の施設整備事業を日高村に誘致し、村内での新たな雇創出する。また、原材料の木材チップや茶葉については仁淀川流域でほぼ全量を調達することから、雇用と併せた地元生産者への経済効果の波及を目指す。</p> <p>【南エスエス】</p>	<p>○企業進出による雇用の増</p> <p>◆地域素材を活用した地域振興</p> <p>◆安定した生産ライン体制の確立</p>	<p>・日産400ケースを目指した生産体制の調整</p> <p>・ヒバを使った新商品の製造や他県の工場で製造していた商品の(株)エスエスへのシフト</p> <p>・OEM先であるアース・バイオケミカル(株)を訪問し、関係の維持と販売促進を要請(副知事、日高村、地域本部)</p> <p>・OEM先と連携した販路の拡大</p> <p>・高知県学校生活協同組合での販売開始</p>
<p>25 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>仁淀川流域の多様な自然や生活文化等の地域資源を基にして旅行商品化を進め、交流人口の拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川をブランドとして観光PRに活用するとともに、地域産品に仁淀川ロゴマークを用いて販売促進を図るなど、観光と他産業を組み合わせた観光産業化を推進する。</p> <p>【仁淀川地域観光協議会、いの町観光協会、越知町観光協会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村】</p>	<p>○仁淀川地域観光協議会の旅行会社への売り込みによるツアー造成は、昨年度に比べて大きく実績数を伸ばしている。</p> <p>○屋形船の運航(日高村)や、河原でのパーベキューサービス(いの町)など新たな体験メニューも開始された。</p> <p>○主要観光施設への入込客数が前年比で増加しているほか、カヌーやラフティングの参加者数、ツアー造成の実績数なども順調に増加している。</p> <p>※企画したツアーが110本催行、送客人数2,477名(H24年度実績)</p> <p>◆ツアー造成で取り上げられる地域内の観光資源の掘り起こしを図るとともに、県の観光振興施策とも連携して県内外の一般客へのPRを行い、継続的な仁淀川地域への誘客につなげる。</p>	<p>○旅行商品及び観光資源等のプロモーション活動の実施</p> <p>・エーエージェント訪問、県コンベンションセールスキャラバン</p> <p>○旅行会社へのツアー売り込み</p> <p>○仁淀川エリアキャンペーンスタート(4/1~9/30)</p>
<p>26 仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大</p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、津野町、梶原町》</p> <p>横倉山から佐川町にかけての貴重な地域資源(地質)を活かし、仁淀川流域を中心に、天狗高原(四国カルスト)も組み合わせ、「世界ジオパーク」の認証に向けた取組を進め、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○ジオサイトの整備、実施主体の組織化など、整備事項が多岐にわたり、費用負担も相当規模になると見込まれることから、取組を円滑に推進するために、これらを盛り込んだ事業計画の検討を実施した。</p> <p>◆各6町村での説明会の実施や様々なイベントでの啓発活動など、最も重要であり、最も時間を要する地域住民の認知度の向上</p> <p>◆どのように地質資源の保全を行うか、地質等を如何に教育に役立てるか、地質遺産を楽しむジオツーリズムによって如何に地域経済活性化を図るかなど、ジオパークの3つの柱の整備</p> <p>◆ジオパーク推進拠点や多言語案内看板、説明板等の設置等のハード整備</p> <p>◆しっかりとした運営と運営計画の策定が実施できる運営母体の整備(組織は公的機関、地域社会、私的団体、および研究教育機関などから構成)</p>	

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】食品加工新規部門の販売額 (H21: 2.0億円)(H23: 3.2億円) 【目標(H27)】 4.5億円 【H25到達点】 4.0億円
		【指標】ペット用木質系排泄物処理剤の 販売額 (H23: 450万円) 【目標(H27)】 9,000万円 【H25到達点】 4,000万円
○企画したツアーが118本催行された	○企画したツアーの送客人員(11月末現在) <u>2,984名</u>	【指標】仁淀川地域観光協議会関連の ツアー客数(H23: 500人)、公共関連宿 泊施設での宿泊者数(H19: 52,156人) (H22: 52,902人)、主要観光施設の入込 数(H19: 136,380人)(H22: 135,029人) 【目標(H27)】 仁淀川地域観光協議会関連のツアー客 数730人(年10%アップ) 公共関連宿泊施設での宿泊者数56,000 人 主要観光施設の入込数140,000人 【H25到達点】 ツアー客数2,500人 宿泊者数54,000人 入込数138,000人
		【指標】ジオサイトへの入込客数 【目標(H27)】 5,000人 【H25到達点】 —

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>27 集客施設の整備による新居地区の活性化</p> <p>《土佐市》</p> <p>土佐市の新たな地域振興の拠点、地域情報発信基地として「南風の駅」(仮称)を整備し、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。</p> <p>【(仮称)「企業組合 土佐の夜明け」を予定】</p>	<p>○地域資源を活用した観光商品づくりに取り組む中で、具体的な動きが出始めた。</p> <p>◆施設整備の内容や運営方法、体制等の検討</p>	<p>○交流施設建設設計の準備、発注</p>
<p>28 体験型観光・食観光の推進</p> <p>《土佐市》</p> <p>土佐市において、地域資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。</p> <p>【土佐市、土佐市商工会など】</p>	<p>○地域資源を活用した観光商品づくりに取り組む中で、具体的な動きが出始めた。</p> <p>○宇佐・高岡の2地域から「まちあるきコース」が誕生し、ガイドの研修を実施。</p> <p>○市場内での体験メニューや、買物ツアーなど旅行商品に組み込まれ、高評価を得ている。</p> <p>◆まちあるきガイドの不足</p> <p>◆宇佐土曜市への出店者及び出店品目の不足</p>	<p>○とさあるく。定例会(6回)</p>
<p>29 体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり</p> <p>《いの町》</p> <p>いの町において、地理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。また、宿泊施設の少ない流域において、観光客が地域にお金を落とす仕組みとしての地域素材を活かした名物やお土産品の開発を行う。</p> <p>「グリーンパークほどの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。</p> <p>【いの町、いの町観光協会、いの町商工会、ロハスなむさびの里づくり協議会、土佐和紙工芸村 ほか】</p>	<p>○仁淀川地域観光協議会の設立や新たな体験型メニューの構築等により、いの町内の公共関連宿泊施設の利用者も増加しており、流域全体での目標達成は微妙であるが、雇用の増加(土佐和紙工芸村他)や所得の向上、地域の活性化につながっている。</p> <p>○カヌー、ラフティング体験者の増加による売上の増加(H23⇒H24) 前年比192%(4~3月)</p> <p>○H24開始のにっこにバーベキュー実施による関係事業者の収入増加(7~3月)626セット販売</p> <p>◆ハード・ソフト両面で、流域で受け入れる体制が構築されておらず、流域上げて取組む組織体制の整備が課題。</p> <p>◆従来から流域で弱い食の観光も含め、さらなる魅力ある体験型観光メニューの構築や地域の資源を活かした銘産品の開発等が必要。</p>	<p>・仁淀川カヌー開き開催:4/21</p> <p>・いの町紙のこいのぼり開催:5/3~5</p> <p>・土佐和紙工芸村「くらうど」における和紙に親しむクラフト教室①開催:5/2~6</p> <p>・にっこにBBQまつり開催:7/6</p> <p>・グリーンパークほどのキャンプ開催:7/29~30</p> <p>・仁淀川国際水切り大会開催:8/25</p> <p>・仁淀川神楽と鮎と酒に酔う開催:9/29</p> <p>・駅からウォーク実施:11/23</p>
<p>30 山岳資源を活用した交流人口の拡大</p> <p>《いの町》</p> <p>「木の香温泉」を拠点とし、他の観光施設と連携して四国山地の地理的条件を活かした高地トレーニングや、山岳資源を活用した体験メニューの開発により体験型観光を推進し、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【いの町、いの町観光協会】</p>	<p>○体験メニュー等の開発</p> <p>これまで高地トレーニングのモニター等は、実施されたが、商品化までには至っていない。また、体験メニューづくりもモニターツアーを実施しているが、ウォーキングを除いて完成には繋がっていない。しかし、どちらも参加者には好評で商品化が期待される。</p> <p>◆体験メニュー等の商品化</p> <p>◆商品化に向けての資源の掘り起こし</p> <p>◆売り込み先の確保</p>	<p>○GWに木の香温泉周辺でイベント開催(5/3~6)</p> <p>○UFOラインウォーキングツアー開催(5/15、5/18)</p> <p>○伊予富士とスカイラインドライブツアー実施(6/8)</p> <p>○本川あけぼの会の弁当発表試食会(6/27)</p> <p>○冬山ツアー研究会の開催(7/25、8/6、10/22、12/19)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 — 【目標(H27)】 — 【H25到達点】 —
とさあるく。受入人数 48名		【指標】 — 【目標(H27)】 — 【H25到達点】 —
<ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川カヌー開き: 55名参加 ・いの町紙のこいのぼり: 5/3 5,000名参加、5/4 7,000名参加、5/5 7,000名参加 計19,000名参加 ・土佐和紙工芸村「くらうど」における和紙に親しむクラフト教室①: 51名参加 ②: 13名参加 ・にこにこBBQ 1724名参加 1174セット販売(4~8月) ・にこにこBBQまつり: ぜいたくコース43、にこにこコース22計65セット販売 ・グリーンパークほどのキャンプ: 32名参加 ・仁淀川国際水切り大会: 150名エントリー ・仁淀川神楽と鮎と酒に酔う開催: 3,700名参加 ・駅からウォーク: 1名参加 		【指標】いの町内の公共施設の利用者数 (H22: 約450,000人) 【目標(H27)】500,000人 (10%アップ) 【H25到達点】472,500人 (5%アップ)
・フジトラベル登山ツアーにあげぼの弁当受注 (9/7 25食、9/22 20食)		【指標】本川地区の公共施設利用者数 (H22: 67,600人) 【目標(H27)】71,000人 (5%アップ) 【H25到達点】68,700人 (1.6%アップ)

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (講じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>31 観光情報の一元化とおもてなし観光の推進</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>仁淀川町において、情報発信の強化や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。</p> <p>【仁淀川町内の観光関連団体】</p>	<p>○観光6団体のHPが完成し、情報発信力が強化された</p> <p>○仁淀川町の観光を考える会が発足(H23.2)し、観光振興の民間団体の結束あり</p> <p>○宝来荘及びゆの森施設の改装・増築によるリニューアル</p> <p>○ガイドの学校プロジェクト開始(H23.11～)ガイド要員が3名誕生(計6名)</p> <p>○観光情報HP及びびサイトが完成し、情報発信力が強化された。</p> <p>◆ガイド不足、観光ガイド内容調査・整理、ツアーづくりと実践が必要</p> <p>◆既存観光施設の運営、観光案内版等の不足、地域産品の不足、観光団体高齢化</p> <p>◆徹底的な差別化されたマニアックな旅の提案(話題性、国内では極めて珍しい)</p>	<p>・プロジェクト情報共有のための協議(町内観光関連団体、役場、商工会)</p> <p>・観光施設等の整備・改修</p> <p>・ふるさと雇用再生特別基金事業を活用して1名配置(商工会)</p> <p>・緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用して1名配置(商工会)</p> <p>・町の観光PR(役場)</p> <p>・ガイドの学校実施(3回)</p>
<p>32 歴史的風致維持向上計画の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>「文教のまち」佐川町において、シンボルの建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、観光資源としての充実を図る。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○歴史的風致地区において国庫補助事業「歴史的環境形成総合支援事業」を活用し、佐川文庫庫舎(旧青山文庫)の上町への移築、景観を損なっている建物を取り壊しての小公園整備など、観光資源としての街並み整備を図り、またソフト事業では、ホームページやパンフレットの作成など対外的な広報活動、情報発信を行うとともに、イベントの開催など、地域での継続的な活動も行うことにより徐々にではあるが観光客の増加がみられている。</p> <p>○国庫補助事業の見直しにより従来の事業から「街なみ環境整備事業」に事業が移行しながら、取組は継続しており、平成23年度に、「街なみ環境整備事業計画書」を作成し、引き続き観光資源としての整備と活用を検討している。地域ではNPO法人佐川ろがねの会を中心に観光資源を生かした観光ガイドの充実や商工会と連携したイベント等を図り、地域の活動が活発化の傾向にある。</p> <p>◆歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街なみ環境整備事業計画への取組</p>	<p>◆町並み環境整備事業 濱口邸改修及び牧野生家再生工事 94,128千円</p>
<p>33 佐川町における知的体験型観光の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>「学ぶ楽しみ・触れる楽しみ・交わる楽しみ・五感の楽しみ、大人の知的好奇心を刺激する「佐川学」による観光」を目指し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○平成23年度には、「佐川学」をテーマに量より質の知的体験の観光地域づくりを検討し、知的体験ができる施設の移築・整備を進めることによって、新たな観光メニューの創出による、地域への経済効果波及と地域活性化等の効果を創出するさかわ文教・歴史のまちなみ重点地区まちづくり計画とさかわ文教・歴史のまちなみ重点地区街なみ環境整備計画を作成した。</p> <p>◆歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた観光資源として整備できるようソフト事業の展開も必要であることから、さかわ観光協会と地域組織との意見調整が必要。</p>	<p>・歴史的風致地区維持向上計画について役場関係課の協議</p> <p>・高知県観光拠点等整備事業ヒアリング</p> <p>・名教館移築工事契約</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・ガイドの学校参加者のべ30名 ・各団体によるツアーの検討・実施	・ <u>実施ツアー数3本</u>	【指標】 ガイド養成人数、実施ツアー数 【目標(H27)】 ガイド養成人数20人、実施ツアー数50ツアー 【H25到達点】 ガイド養成人数10人、実施ツアー数10ツアー
○濱口邸及び牧野生家完成	○ <u>牧野生家来館者数</u> 4月 264人 5月 421人 6月 714人 7月 699人 8月 324人 9月 305人 10月 <u>627人</u> 11月 570人	【指標】 歴史的風致地区への入込客数 【目標(H27)】 5,000人 【H25到達点】 10,000人
		【指標】 知的体験施設への入込客数 【目標(H27)】 5,000人 【H25到達点】 10,000人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (講じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>34 佐川町収蔵資料を活用した地域の活性化</p> <p>《佐川町》</p> <p>佐川町には多くの偉人の収蔵資料があり、特に植物学者として世界的に著名な牧野富太郎博士の植物標本や植物画等の資料が多くある。こうした収蔵資料等の展示施設を整備し、集客の核としての充実を図り、「牧野博士」や「佐川の偉人」を旗頭とした文教での地域活性化を推進する。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○平成23年度には、佐川町にある偉人の収蔵資料を活用、特に「牧野博士」を展示する施設の整備をすることにより、新たな観光メニューによる、地域への経済効果波及や地域活性化等の効果を創出するために、「さかわ文教・歴史のまちなみ重点地区まちづくり計画」と「さかわ文教・歴史のまちなみ重点地区街なみ環境整備計画」を策定した。</p> <p>◆歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、観光資源としての活用の検討</p>	<p>・歴史的風致地区維持向上計画について役場関係課の協議</p> <p>・牧野富太郎ふるさと館オープン(4/24)</p> <p>・浜口邸・牧野富太郎ふるさと館オープニングイベントの開催</p> <p>・「牧野富太郎の聖地を歩く」イベント開催</p>
<p>35 越知町の総合的な観光推進と地場製品の販売促進</p> <p>《越知町》</p> <p>情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。</p> <p>【おち駅運営協議会、越知町観光協会、JAコスモス、越知町など】</p>	<p>○H22.4: 観光物産館おち駅オープン</p> <p>○H24.8: 新POSシステム導入</p> <p>◆物販販売体制を更に強化する必要がある。</p> <p>○H23.7: カヌー、ラフティング開始</p> <p>◆体験型観光のメニューは仁淀川を活用した物のみであり、荒天時、シーズンオフへの対応が出来ていない。</p> <p>◆団体客に対応できるだけのラフティング・インストラクターがいない。</p>	<p>◆経営改善会議の開催(1回)</p> <p>◆おち駅物販経営協議会設立総会の開催(1回)</p> <p>◆おち駅物販経営協議会の開催(9回)</p> <p>◆カヌー、ラフティングガイド講習会の開催(4回)</p> <p>◆横倉山案内人養成講座の開催(5回)</p>
<p>36 直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>直販市「さんさん市」を拠点として整備し、周辺の観光資源と連携した活用を図ることで、日下川調整池周辺での観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>○平成24年度産振総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)による事業を実施し、地域の観光情報発信拠点機能を有した施設整備計画を取りまとめた。</p> <p>◆施設整備後の集客に向けた体制作り及び運営体制の検討が必要。</p>	<p>・県産振補助金交付申請</p> <p>・集荷の実施と生産者への出荷要請</p> <p>・店舗責任者の農業創造セミナーへの参加</p> <p>・日高村総合発信拠点施設整備検討委員会の開催(3回)</p>
<p>37 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>仁淀川沿いエリアでの新たな観光振興につながる屋形船の運行開始に合わせて船の発着場周辺を整備することで、集客力のアップを図り、観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>○平成24年度観光拠点等整備事業費補助金(観光資源魅力向上事業)による事業を実施し、屋形船を活用した拠点整備計画を取りまとめた。</p> <p>◆仁淀川沿いエリアにおいて、川を活用した体験メニューの充実が必要。</p>	<p>・5月から屋形船を1隻から3隻に増やして運航</p> <p>・屋形船仁淀川運航1周年記念イベントの開催</p> <p>・屋形船の発着場周辺の整備計画について協議</p>
<p>38 国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>小村神社の国宝(大刀)の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした観光資源の整備を図ることで、小村神社周辺エリアでの交流人口を拡大し、観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>○平成24年度観光拠点等整備事業費補助金(観光資源魅力向上事業)による事業を実施し、国宝レプリカを活用した施設整備計画を取りまとめた。</p> <p>◆小村神社周辺エリアでは、国宝に指定された大刀の常設展示など観光資源の磨き上げと域内の観光ガイドの組織化など体制整備が必要。</p>	<p>・国宝レプリカ制作に関する協議</p> <p>・国宝のさや部、刀身部の制作</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 資料館への入込客数 【目標(H27)】 5,000人 【H25到達点】 10,000人
◆ラフティング実績(4~10月):998名 ◆カヌー実績(4~10月):1,803名(うち963名はコスモス祭りでの体験者数) ◆カヌー、ラフティングガイド講習会:4名 ◆横倉山案内人養成講座受講者:21名		【指標】 施設での販売額(H22:5,600万円)、体験メニューの造成、案内人の養成数、ラフティング・インストラクター数(H23:6人) 【目標(H27)】 施設での販売額6,000万円 体験メニューの造成6メニュー 案内人の養成数6人 ラフティング・インストラクター数8人 【H25到達点】 施設での販売額6,000万円
		【指標】 体験型観光での入込客数(H22:7,834人) 【目標(H27)】 23,500人 【H25到達点】 15,700人
◆屋形船の利用者数(11月末現在): <u>2,993人</u>		【指標】 体験型観光での入込客数(H22:7,834人) 【目標(H27)】 23,500人 【H25到達点】 15,700人
		【指標】 体験型観光での入込客数(H22:7,834人) 【目標(H27)】 23,500人 【H25到達点】 15,700人